



## 宮崎大学における人材育成

加来 昌典

### Human Resource Development at University of Miyazaki

Masanori KAKU

タイトルを「宮崎大学における人材育成」としたが、本学の卒業生でもあり教員を15年程度している私の私見と提供していただけるとありがたい。本学の工学部では入試の際に、複数のプログラム(以前は学科)を順位付けして志望することができる。そのため私の担当している電気電子工学プログラムに必ずしも第一志望で入学してくる訳ではない。特に近年では、倍率の高い情報通信系のプログラムに合格できなかった者が第二志望としていた電気電子工学プログラムに合格して入学してくる場合も多い。そのためか修学に対するモチベーションが低く、キャリアプランも描けず何となく在学している学生も多い。今では学生に対して「将来を... 将来を...」とくどい位に言うが、今振り返ると私も大した考えを持たずに大学へ進学していた。

私の場合は、高専の電気工学科へ進学したことが工学分野へ足を踏み入れるきっかけであった。これは理数系の科目が得意ということもあったが、早くバイクや車に乗りたかった私にとって「三ない運動」が無かった高専が魅力的であったことが大きい。高専に入学して低学年のときから大学への編入を意識していたが、いざ大学へ編入するにあたり宮崎大学に決めたのは、本当につまらない理由なので、ここでは伏せておく。このように当時の私は特に大学でやりたいことがあったわけでは無く、今の学生と大した違いは無かった。そんな自分の過去はすっかり忘れて、いざ教員として大学へ戻った当初は、本学の学生に対して不安を感じていた。しかし、ほとんどの学生が卒業研究をやり遂げる頃には、問題ないレベルに達している場合が多かった。今では本学の学生は十分なポテンシャルを持っており、学生自身の研鑽も必要であるが、その学生の能力をどれだけ引き出せるのかが、我々教員の課題だと感じている。もちろんどの大学であっても同様だと思うが、本学の学生は初期状態で隠れている部分がとても大きいので、それを発揮できたときに感じるギャップが大きいのだと思う。

またその頃の自分を振り返ると、編入生の私は4年次に進級するために多くの専門科目を受講する必要があり、その中で高専のカリキュラムに無かった「光学」や「レーザー工学」などを学ぶ機会を得た。4年次の研究室配属では「レーザー工学研究室」を希望した。今思うとこれが私の人生最大の分岐点であった。ちなみにその年の人気の研究室は電力系で、レーザー研は先生(佐々木 亘先生、窪寺 昌一先生、河仲 準二先生)が厳しいという話があり不人気の研究室であった。それにもかかわらずレーザー研を選択したのは、3年次で受講した前述の科目が、私にとっては新しい学問分野で興味が湧いたことと、研究内容に新しさを感じたからであった。そうしてレーザー研での研究活動を通して研究開発に携わりたいと思うようになっていた。修士課程修了後に企業に就職すると、運良く研究部門に配属され仕事は充実していた。今思うと、新しい分野に出会い知的好奇心に刺激を受け知識を深めるようになり、研究では指導教員から叱咤されつつも取組み方や論理的思考の指導を受けることで、修士課程を修了する頃には主体的に物事に取組めるようになっていたのかと思う。結局、企業というものが体質に合わないと感じていた私は、就職2年目の3月に退職して博士課程へ入学した。さすがに博士課程に入学してからは、この分野で生きていく決意を固めた。そして博士課程修了後は、2つの機関でポスドクを経験した後に宮崎大学の教員となり、教えられる立場から教える立場になった。教員になったからといって急に特別なことができるわけもなく、現在まで学生への指導は、大学時代とポスドク時代の恩師の先生方から受けた指導を参考にさせていただいている。曲がりなりにも教員を続けられているのは、その先生方のおかげだと思っている。今後も宮崎大学から産業で活躍できる人材を輩出することができればと思う。最後にレーザー研究に学部3年生くらいの学生でも頑張れば理解できる程度の解説論文や記事を掲載していただければ、教材として活用できるのでありがたいと思っています。

† 宮崎大学(〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1)

† University of Miyazaki, 1-1 Gakuenkibanadai Nishi, Miyazaki 889-2192